



2020年度 北陸学院大学 出張講座一覧

分野	No.	講座名	概要	講師	対象	定員	使用機材等
「社会」	1	家族問題を考える	家族とは何か、さまざまな家族のあり方、家族というシステムのかかえる問題、特に不登校、家庭内暴力、ドメスティックバイオレンス、こども虐待など、家族の闇の部分とその病理性を考え解決の糸口を探ります。	虹釜 和昭 (人間総合学部 教授)	高校生 一般	40名	プロジェクタ、スクリーン
	2	「犯罪・非行」に関わる「ボランティア」を通して考える社会のあり方	このタイトルを一目見て、みなさんは直感的にどんなイメージを持たれるでしょうか。様々な例を紹介することで、「犯罪・非行」あるいは「ボランティア」を理解するにあたっての多様な価値観や視点をお伝えし、そこから、わたしたちが生活するこの「社会」について、改めて考え直してみよう。	竹中 祐二 (人間総合学部 准教授)	一般	40名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン
	3	防災・減災コミュニティとは	災害リスクから暮らしや地域を守るために必要な視点について考えます。	田中 純一 (人間総合学部 教授)	高校生 一般	40名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン
	4	グローバル化と日本の地域社会	グローバル化という流れの中で、国際的な人の移動が活発になっています。国際的な労働移動に伴う日本の地域社会の変容を把握し、文化的背景の異なる人々が同じ地域社会でどのように暮らしてゆけばよいのかについて考えます。	儀 希實 (人間総合学部 教授)	一般	40名	プロジェクタ、スクリーン
	5	ミッションマネジメント -企業の経営理念浸透の取り組み-	多くの企業がミッション、経営理念を掲げていますが、企業内に浸透しなければその役割を十分に果たすことはできません。企業が実践している理念浸透の取り組みと浸透メカニズムについて考えます。	野林 晴彦 (短期大学部 准教授)	一般	40名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン
	6	政治は景気に影響を与えるのか	政治と景気の関係について、日本および諸外国の事例から考えます。	若山 将実 (人間総合学部 教授)	一般	40名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン
「教育」	7	英語による英語の授業の基本	ここ数年、文部科学省の英語教育に関する改革が急速に進んでいます。今や、「英語で英語の授業」は当然のことですが、意外にその具体的なノウハウは現場の教員に伝わっていません。実際に英語の授業を体験してみませんか。教師役でも生徒役でもかまいません。一緒に考えてみましょう。	伊藤 雄二 (人間総合学部 教授)	小・中・高の (英語を教えている)教員	20名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン、 ホワイトボード、CDラジカセ
	8	絵本が与える効果について 触れて・感じて・考えてみよう!	絵本の面白さは絵が語ると言われるように、絵本の「絵」には、人をウキウキ・ドキドキ・ハラハラさせる効果が含まれています。一冊の絵本をじっくりと見つけ、「絵」の描かれ方に注目してみましょう。きっとあなたも絵本の不思議に気づくはず!	高村 真希 (人間総合学部 助教)	高校生 一般 保育者	20名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン
	9	子どもおとなも心が動くとき… 自然の中(森)で育まれる大切なもの、 生きる力とは	“自然を活かした保育”って単なる決まりきった自然体験活動をするのではないのです。子どもたちは自然と多様にかかわる中で、何を見て、聴いて、感じて、触って、匂いを嗅いで、学んで…いるのでしょうか?なぜ子どもの育ちに自然環境が必要なのでしょう…。そして私たちおとなはどうすれば…「子どもを信じて見守ること」って大切なことと分かっているにも関わらずとも勇気のいることなのかもしれません。一緒に子どもたちの未来のために育みたい力について考えていきたいと思います。	谷 昌代 (人間総合学部 助教)	保育者 一般	20名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン
	10	心を癒す音楽	クワイアチャイム・ミュージックベル(音色はハンドベルに似ていますが、より演奏しやすい楽器です)を利用したワークショップです。優美で清澄な響きを楽しめます。	多保田 治江 (人間総合学部 教授)	一般 (応相談)	20名	CDプレーヤー、長机3本
	11	子どもたちが喜び伸びていくために -肯定的な見方や声のかけ方-	子どもたちの様子が戸惑うことはありませんか。ついつい否定的な言葉を投げかけてはいませんか。学校現場と教育相談機関における37年間の経験から、子どもたちを無理なく肯定的に見ていく見方・考え方を一緒に考えていきたいと思います。	茶谷 信一 (短期大学部 教授)	保護者 教育関係者	40名	ホワイトボード
	12	グループディスカッションのすすめ -みんなで楽しく-	私たちは様々な場面で協働作業を行います。グループとしてより良い成果を得るためのグループディスカッションのコツを実践を交えて紹介いたします。	富岡 和久 (短期大学部 教授)	中学生 高校生 一般	40名程度 (応相談)	プロジェクタ、 スクリーンあるいは大型モニター
	13	チーム学校を創り出す -つながりを大切に-	学校教育は教員だけでできることではありません。職員や外部の協力があってこそ教育は成り立ちます。この講座では、これまで学校運営に携わってきた中での事例を挙げながら、教員と職員、学外との連携など、よりよいチーム作りとは何かについて考えます。	中島 賢介 (人間総合学部 教授)	保育者 教育関係者 一般	40名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン
	14	子どもの世界は「物語」	子どもは、同じ空間を共有していたとしても、実は一人ひとりで異なる世界、それぞれの「物語」の中に生きています。そして、そのような個々の「物語」が重層をなし、響き合ったとき、そこに豊かな宇宙が生まれてきます。絵本に見られる子どもの姿、保育所や幼稚園、小学校におけるくらしや遊び、授業の中の姿をもとに、子どもの世界の面白さや内面理解の視点、大人のかかわりのあり方について考えてみましょう。 (※幼児、小学生、障害児等、ご希望の内容があればご相談ください)	福江 厚啓 (人間総合学部 講師)	一般 (保幼小保護者等) 教育関係者	40名	プロジェクタ、スクリーン (パソコン持参 VGA、HDMI可)
	15	音読を楽しむ	音読することで、脳が活性化し、元気になります。「からだ」と「呼吸」を通じた音読を体感します。「論語」や「文語体で書かれた聖書の言葉」等の名文を、声に出して読んでみましょう。言葉の一つ一つがからだに染み込んでくることを実感することでしょう。	幸 聖二郎 (人間総合学部 准教授)	小学校 1～3年生	30名	プロジェクタ、スクリーン
	16	遊びの中に学びがある	「学び」とは単なる技術の習得だけではなく、「そうだったのか! わかった! できて嬉しい!」等の心の躍動を伴うものです。幼児期の遊びには、心が動く→やってみる→面白くなる→繰り返すのステップがあり、その過程を経ることで、幼児は自然と学んでいるのです。そのことを手作り教材を通じて感じてほしいと思います。	向出 圭吾 (人間総合学部 講師)	高校生 一般	20名	
「情報」	17	SNSのその使い方、正しいですか?	SNS利用によるトラブルが多く聞かれるようになってきました。例を取り上げ、利用する上での注意点を紹介します。	池村 努 (短期大学部 教授)	中学生 高校生 一般	40名	プロジェクタ、スクリーン
	18	親子で考えよう! ネットのこと、スマホのこと	石川県では小中学校の子どもには携帯電話を持たせない条例があります。しかし、ゲーム機や音楽プレイヤーでもネットにつながる事ができます。また、スマホを持つ子どもも増えてきました。このように子どもを取りまく環境は大きく変化しています。そこで、親子で、ネットのこと、スマホのことについて考えてみる話題を提供します。	村井 万寿夫 (人間総合学部 教授)	小学生 中学生 保護者	40名 (応相談)	プロジェクタ、スクリーン
	19	情報はウソをつく	現代は情報が溢れかえっています。情報の海で溺れないためにも情報リテラシーが重要となってきています。そこで、普段触れる情報をどのように評価するのか考えてみたいと思います。	若杉 亮平 (人間総合学部 准教授)	一般	30名	プロジェクタ、スクリーン

分野	No.	講座名	概要	講師	対象	定員	使用機材等
「言語と文化」	20	観光地・金沢の魅力を伝える ～ガイドのカ～	「観光立国」を目指す日本の中でも注目されつつある観光地としての金沢。観光地としての魅力を伝えるガイドとして求められているものは何なのか？実例を通してガイドとして求められる資質や能力、観光客からみて魅力的なガイドとはどのような人物なのか？を考えてみましょう。	葦名 理恵 (短期大学部 助教)	一般 観光関連	10名以上 40名以下	パソコン、プロジェクタ、スクリーン、 ホワイトボード
	21	絵本で楽しむ英語と異文化	英語の絵本からは子どもも大人も英語や異文化を学ぶことができます。アクティビティをプラスすると楽しみ方の可能性も広がります。読み手も聞き手も楽しめる、さまざまな読み聞かせのアイデアを考えてみましょう。	木村 ゆかり (短期大学部 助教)	小学生 中学生 高校生 一般	40名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン
	22	日本と韓国の食器の比較	「文化としての食べ物」という視点から、日本と韓国の食文化を比べます。	小林 正史 (人間総合学部 教授)	一般	40名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン
	23	観光学入門	観光の基礎知識として、観光の概念、観光資源、観光産業について解説します。そして、観光客に対し石川県のどんなところが魅力か、アピールすべきかについて、一緒に考えます。	沢田 史子 (短期大学部 教授)	一般	40名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン
	24	なぜ世界には多くの言語があるのか？	私たちは「ことば」を使って世界を理解しています。世界には多くの言語がありますが、「ことば」が違えば、世界の捉え方も違うのです。本講座で、このような観点から外国語を学ぶことについて一緒に考えましょう。	高島 彬 (短期大学部 講師)	中学生 高校生 一般	40名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン
	25	創作ダンス	ダンスの難しい技法は使いません。絵を描くように、音楽を奏でるように表現したいことを自由に身体であらわします。	田邊 圭子 (人間総合学部 教授)	一般	30名	音響機材 (CDラジカセ等)、 動きやすい服装、マイク (ピンマイク)
26	「英語がわかる」ってどんなこと？ ～ことばの不思議、人間の不思議～	英文を訳せても、なんだかよくわからないことってありませんか。何が足りないのでしょうか。「英語がわかった」時、あなたの頭の中ではどんなことが起こっているのでしょうか。多義語や類似表現など英語の実例を見ながら、英語のしくみ、ことばを使いこなす人間の不思議に迫ってきましょう。	宮浦 国江 (人間総合学部 教授)	高校生 一般	40名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン	
「福祉・心理」	27	難聴者の心理学	本講義では、病気や障害、加齢などさまざまな理由から聞こえにくさ、聞き取りにくさを持つ人の心理をとりあげる。よりよいコミュニケーションのコツを考えます。	勝谷 紀子 (人間総合学部 教授)	一般	40名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン
	28	人間にモラルはあるのか？	性善説や性悪説など、人が道徳的であるかどうかは広く議論されてきました。この講座では、最新の道徳心理学の知見から、人間の道徳・倫理観の本質を考えます。	加藤 仁 (人間総合学部 講師)	一般	40名	プロジェクタ、スクリーン、スピーカー (ケーブルはHDMI/VGAいずれも可)
	29	相手の話を聴く上で大切なことは？	私たちが日常の人間関係において相手の話をよく聴くことは、人間関係を円滑していく上で大切なことだと思います。普段の自分の話の聴き方について振り返り、よりよい話の聴き方 (傾聴) において大切なことを考えてみたいと思います。	齊藤 英俊 (人間総合学部 講師)	高校生 一般	40名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン
	30	障害者福祉基礎講座 ～よき理解者・支援者となるために～	こころの不調や障害は、社会環境、あるいは人々の中でどのように捉えられているのか考えます。障害のある人を直接支援するための技術的な内容ではなく、その前提となる概念理解の講座です。	田引 俊和 (人間総合学部 教授)	高校生 一般	40名	プロジェクタ、スクリーン (パソコン持参)
	31	“ケアが変わる”記録の方法	ケアの質を高めるためには、どのように記録を書けば良いのでしょうか。この講座では、ケアプランや実践と関連づけながら、より適切な記録の書き方について学びます。	真砂 良則 (人間総合学部 教授)	介護職等の 福祉関係者	40名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン、 経過記録
	32	生徒同士の助け合いを支えるピア・サポート	生徒同士の助け合いを促進するためのピア・サポートについて解説します。	松下 健 (人間総合学部 准教授)	高校生 教育関係者	4名以上 40名以下	パソコン、プロジェクタ、スクリーン、 ホワイトボード
「食生活」	33	野菜の機能性と食べ方	野菜は1日どれくらい必要なの？どんな組み合わせがいいの？野菜を上手に食べる秘訣を学びましょう。	田中 弘美 (短期大学部 准教授)	一般	40名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン
	34	家族のきずなは食卓から	食事は個人の健康を維持するのに必要なのはもちろんですが、家族のきずなを深めるためにも大切な要素です。栄養面だけでなく、食事全般から家族のあり方を考えます。	高岡 和久 (短期大学部 教授)	一般、特に 幼児児童の 保護者	40名程度 (応相談)	プロジェクタ、 スクリーンあるいは大型モニター
	35	食生活と健康づくり	健康日本21や食事バランスガイドを中心に理解を深めます。	短期大学部 食物栄養学科	一般	40名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン
	36	「じわもん」ってなんや？ ～地産地消と郷土料理～	石川県の郷土料理、行事食、加賀野菜の実態について取り上げます。	短期大学部 食物栄養学科	一般	40名	パソコン、プロジェクタ、スクリーン

*使用機材等については、要望に応じて調整いたします。

出張講座について

北陸学院大学では地域貢献事業の一環として、出張講座を行っています。

上記一覧に記載の講座について、定員以内の講座は無料で実施しております。講師謝礼・交通費などの諸費用は本学が負担します。※石川県内のみ

定員以上での実施をご希望の場合や石川県外の場合は「講演会」となりますので、講師謝礼・交通費をご負担ください。(金額は任意) 講座内容については講師とご相談ください。

保育園・幼稚園・小学校・中学校の保護者向けの講座や、職員研修などにぜひご利用ください。

お申込み方法・流れ

1. 北陸学院大学ホームページ「地域教育開発センター」内、「出張講座」にある「出張講座申込書」(Excel)に必要事項をご記入の上、メールに添付してお申込みください。

Email : redec@hokurikugakuin.ac.jp

2. 申込受付後、講師と日程調整の上、ご連絡いたします。※講師によっては、送迎をお願いする場合があります。

3. 講座開催決定後、代表者名で北陸学院大学学長宛に依頼文書(様式は任意)をご提出ください。

4. 講師との事前打ち合わせ等が必要な場合はご連絡ください。

5. 講座実施日は、機材等の準備をお願いいたします。

※当日アンケートを持参いたしますので、ご協力をお願いいたします。回収後、ご返送ください。(恐れ入りますが、郵送料はご負担下さい。)

*「講演会」をご希望の場合は「出張講座申込書」の提出は不要です。TEL : 076-280-3580(代表)までご連絡いただき、講師と直接お話しください。

●講座開催決定後、やむを得ない理由によりキャンセルされる場合は、原則講座開催日の一週間前までにご連絡ください。

< お問い合わせ >



北陸学院大学 学術情報研究・社会連携センター
地域教育開発センター

〒920-1396 石川県金沢市三小牛町イ11

TEL : 076-280-3856

Email : redec@hokurikugakuin.ac.jp